令和5年度　授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬小学校

1　学校として目指す授業

子供が自ら学べることのできる授業　「考える授業」から「学ばせる学習」へ

2　児童の現状

(1)「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
算数では全領域で全国平均を上回っている。一方で、課題となった区分は「思考・判断・表現」と「記述」であった。自分の考えを書き表したり伝えたりする力を伸ばす必要がある。 国語では、特に課題となった区分が「情報の扱い方に関する事項」と「A話すこと・聞くこと」であった。文章から必要な情報を読み取ったり、声に出して伝え合ったりする力を伸ばす必要がある。	国語、算数、英語の勉強について、「好きか」「大切だと思うか」という質問には、全ての項目で肯定的な意見が全国及び東京都の平均を上回っている。一方で「授業で学んだことを他の学習に生かしているか」や「学校の授業以外にどれくらい勉強しているか」については、東京都の平均を大きく下回っている。 学習内容を日常生活に広げたり、教科横断的に取り扱ったりすることが必要である。

(2)東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校4～6年生）

・主要教科についての理解度と、得意不得意の意識の程度は都の平均かもしくは、やや下回っている。そのため、児童が学習に取り組む際、「ライバルに勝つ」「ご褒美がもらえる」等の外発的動機付けの効果的に用いて、主要教科への苦手意識を減らすことを目指す。そのため、「周りの人の役に立つ」「自分の将来に役立つ」等の内発的動機付けとなるような働きかけをすすめることで、学習意欲を高めることを目指す。
・学習の進め方は、粘り強く取り組む態度に関する項目の肯定的な意見が都平均を下回っている。他者と関りながら課題を解決する項目は肯定的な意見が多い傾向があり、協働学習を通して、粘り強く取り組む態度を養う指導方法の工夫が必要である。
・学習習慣は、家庭学習、塾等の時間、共に都平均を大きく下回っている。学校での授業の充実とともに、家庭学習と学校での学習をつなげる工夫が必要である。

(3)　清瀬市「学力調査」の分析

・国語では、漢字の「読み書き」は定着しつつある。
一方で、「文章を書く」「自分の考えを表現する」において、空欄のままにしている実態がみられる。そのため、文章作成や気持ちを表現することが苦手な児童には、定型文や見本となる言葉を手がかりに、文章を書くことができる学習環境を整える。
・算数では「いろいろなかたち」がよく理解できている。
一方で、「分数」「割合」を苦手とする実態がみられる。そのため、苦手な児童には具体物を活用しながらスモールステップで問題を解くことができる学習環境を整える。

(3)　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
毎週2回の東京ベーシックドリルの取り組みと週一回の補習授業の成果として、1学期末に東京ベーシック診断シートを実施し、昨年度の同時期に比べ、多くの学年で正答率が上がっている。

3　児童の学力・学習状況等の課題

・自分の考えをもつことが苦手な児童が多いため、自分の考えに役立つキーワード等が記載された補助教材を活用するとともに、相手と相談したり伝え合ったりする機会を設ける必要がある。
・話すことや聞くことが苦手な児童が多いため、相手の話の要点を把握したり、整理したりする機会を設けるとともに、音読活動の機会の充実を図る必要がある。
・課題を踏まえ、「伝え合う活動」を重点的に取り入れた学習展開を工夫する。

4　学校全体の授業改善の視点

・こども版リカレント教育を実施(小学校1年生段階からの学び直し)する。
・分かるまで教える授業(学習)へシフトしていく。
・基礎・基本となる学力を身に付けさせるとともに、児童が自分で学び方を選択、調整できるような人的環境や物的環境を整えることで個別最適な学びの充実を図る。

【授業改善推進プランの活用法】

①「1　学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2　児童の現状」にまとめる。
③「2　児童の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「3　児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3　児童の学力・学習状況等の課題」を基に，「4　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4　学校全体の授業改善の視点」を基に、「5　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、３学期以降の指導に生かす。

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・毎時間授業の初めに音読する時間を設けるとともに、ペアで自分の考えを伝える活動を取り入れる。 ・自分の考えをもつ時間や機会を十分に設ける。				・ペアで自分の考えを伝える活動を取り入れる。 ・全体的に具体物や半具体物を使って、数量について数学的活動を取り入れて自力解決に繋がるようにする。				・活動や観察で気付いたことを発表する場を設定する。 ・観察カードにまとめる観点を示し、それを基に自分の考えをまとめる。		・曲に合わせた簡単なリズムを自分で作り、発表し、感想を伝え合う。 ・「タ」、「タン」、「タッカ」、「ウン」などを板書し、それらを基に考える時間を設ける。		・友達の作品を見て、よいところや工夫したところを互いに伝え合う。 ・活動の予定を示し、見通しをもたせてから取り組ませる。				・遊び方の工夫や、運動の行い方についての考えを伝え合う時間を確保する。 ・1単位時間の中で、多様な運動遊びを取り入れ、互いに見合う時間を設、友達のよい動きを知ることができるようにする。				・範読や場面絵を基に、自分の考えを持ちながら聞く。 ・自分の考えをワークシートに書く時間を取り、ペアで意見交換をし、クラス全体で考えを共有する。	
中学年	・自力解決の時間の後に、小グループで交流したり話し合ったりする活動を設定する。また、音読理解を深めるために音読活動を取り入れる。 ・既習漢字を繰り返し復習し、自分の考えが正しく伝わるように文章を書く指導をする。		・ペアやグループで調べたことを共有したり、考えたことを話し合ったりする機会を意図的に設定する。 ・「社会的事象の見方考え方」を働かせることを重視し、複数の資料に着目して、比較分類統合して考える力を伸ばすため複数の資料を提示し読み取る活動を設定する。		・自分の考えを文章や記号で表し、授業後の振り返りをする。解決方法を友達と伝え合い検討をする機会を意図的に設定する。□ ・活用の問題で、自力解決の時間を意図的にとり、式に表す際に整理しなが解くよう、指導する。		・実験内容を日常生活と結び付けて、根拠のある予想や仮説を発想し、友達と伝え合えるよう指導する。 ・全員が自分の考えをもった上で実験を行えるよう、施行する時間を確保し、選択肢を設けたり、具体物を用意したりする。				・調子をそろえて集団で歌う楽しさやリコーダーなどの楽器を用いて演奏の楽しさを味わわせる。 ・比較や身体表現などの音楽の聴き方を深めさせ、児童が協働して課題を解決していく授業を展開していく。		・発達段階や児童のしたいことを考慮し、つくり出す喜びを味わえるようにする。 ・自分や友達の発想を大切にし、ICT機器を使ってそのよさを伝え合い、表現の選択肢が広がるようにする。鑑賞の時間に言葉で作品や活動のよさを伝え合う活動を行う。				・チームで話し合う時間を設けることで、協力して活動に取り組むことができるようにする。 ・児童がよい動きを見つけられるよう、児童の学び合いを中心とした授業を展開していく。				・自分の考えをワークシートに書く時間をとり少人数での意見交換をし、クラス全体で考えを共有する。 ・黒板やタブレットに自分の立場を表す時間を設け、題材について自分事として考えられるようにする。	
高学年	・授業中や朝学習の時間に、声に出して話したり聞いたりする学習を継続して行う。 ・自分の考えをもつ時間や機会を十分に設けて、自分の考えと相手の考えを比較、検討して自分の考えを客観的にとらえる工夫をする。		・学習のつながりを意識できるよう、授業のはじめとおわりに、既習事項や学習内容を伝え合うことで知識の定着を図る。 ・自分の学習目標を設定し、調べる、まとめる、表現・発表する時間を十分に設けて、自分の学習を観点別に振り返り、次の学習に活かすなどの工夫をする。		・自分の考えを説明したり友達の考えを聞いたりすることで、考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・既習事項を踏まえながら、ICTを活用して、思考する時間を確保する。		・大切な用語や器具の名前はICTを活用しながら単元中に繰り返し確認することで知識の定着を図る。 ・実験の考察を全員が自分の言葉で書けるよう、実験前に必ず予想を立てさせ、定型文を示すなどの工夫をする。				・児童の気付きを集約し、音楽の曲想と構造を理解させ、児童が個の考えを共有・比較しながら協働して課題を解決していく授業を展開していく。 ・児童が初発の気付きを発散・収束し、身体表現や比較聴取などの音楽の聴き方を自ら選択し学びを深めながら、協働して課題を解決していく授業を展開していく。		・課題解決に向けて自分の表現に合う方法を選び、材料や用具の使い方を工夫して表すことができるように個別最適な学びを促進する。 ・ワークシートやICT機器を活用し、児童が発想を膨らませ、自分なりの考えを大切にした表現活動を行う。 ・鑑賞の時間に作品にこめた思いを自分の言葉で発表することができるようにする。		・実習を通して考えたことを話したり聞いたりする活動を取り入れることで、家庭生活への見方を広げたり深めたりする。 ・調理実習や手縫いなど、児童が体験を通して思考する時間を確保することで、基礎的な技術を身に付けるようにする。		・友達と話し合いながら運動することで、自分の能力に合った適切な運動の仕方を見付けることができるようにする。 ・めあてを立て振り返ることで、自己の運動について思考する時間を確保し、学んだことを生かせるようにする。		チャンツの音声を繰り返し聞いたり、発音したりする時間を増やし、自分からコミュニケーションを図ることができるようにする。 ・ネイティブの音声を聞いたり、友達と繰り返し発音したりする時間を増やし、相手と比較することで、よりよい発言について考えられるようにする。		・自分の日々の生活を振り返り、友達と伝え合うことで、自分事として考えて授業に参加できるようにする。 ・自分の立場について、友達との意見交流を通して明確にする時間を設け、自分事として考えられるようにする。	